

先々週は、何事にも消極的な「草食系」男子が増えている、ということを書いた。なぜ増えているのだろうか。

第一の仮説は、少子化による一人っ子比率の上昇だ。仕事でリスクを取らなくても、特につらい努力をしなくても、土地と家をいずれ相続できる。「並の生活」を保障される一方、「親の介護があるので、転勤は困る」

## 草食化の理由

東京大教授 伊藤 隆敏



「教育をしてい  
たことが  
かつてあ  
った。こ  
れが、草食系を増やした、  
と考えられる。「結果の  
平等」を追求する社会で  
努力は無駄。アメリカで  
は、先週書いた、マイク  
ロソフトや「フェイスブ  
ック」のように、起業で

と考えているようだ。  
第二の仮説は、「競争」  
に対する社会的な忌避。  
「運動会の徒競走で、速  
い子も遅い子もみんな  
手をつないでゴールす  
る」教育

若くして巨万の富を築く  
ことも可能だが、日本の  
草食系は「このような成  
功は難しい」と最初から  
あきらめてしまう。

これらの説明にも難点  
はある。第一の仮説に対  
しては、親も長寿化して  
いるので、子どもは、若  
いうちは特に実家に戻る  
必要もなく、世界に羽ば  
たいて思う存分、仕事を  
できる。最近の平均寿命  
を考えると、実家(田舎)  
に戻るのは定年からでも  
遅くない。第二の仮説で  
は、女子が元気な理由を  
説明できない。

「努力しなくても並の  
生活が保障される」と考  
える草食男子が増えてい  
るのは事実かもしれない。  
だが、世界に打って  
出る若者の活躍によっ  
て、1人当たりの生産性  
を上げなければ、日本経  
済は衰退する。

新たな分野への挑戦に  
失敗しても再チャレンジ  
できるよう、セーフティ  
ーネットを整備し、世界  
の若者と切磋琢磨(せつ  
さたくま)できる環境を  
整えることを日本の成  
長戦略として奨励した  
い。